

2024 年度東北地区国立大学法人等技術職員研修 参加報告

技術第3班 志村 良一郎

1. 開催の目的

東北地区国立大学法人等の教育・研究支援系技術職員に対し、講演、技術発表及び実技等を通して、高度の専門知識及び技術等を修得させ、職員の資質の向上等を図ることを目的とする。

2. 日程

2024年9月18日(水)から9月20日(金)の3日間に対面及びオンラインにて開催された。今年度の主幹校は東北大学青葉山キャンパスである。

<1日目> 9月18日(水)

- 12:00- 受付(オンライン接続)
- 12:50- 開講式(ガイダンス、自己紹介等)
- 13:40- 基調講演①
「地球温暖化とこれからの海洋観測」
農学研究科 水産資源生態分野
教授 片山 知史
- 14:50- 基調講演②
「食・農領域での Nano Terasu 利活用に向けた東北大学の宇賀宇研究科の取り組み」
農学研究科 分子生物化学分野
教授 原田 昌彦
- 16:00- 技術発表(ポスター発表)
- 17:15- 情報交換会

<2日目> 9月19日(木)

6つのグループに分かれて全日実技研修が行われた。加工からネットワーク、分析など幅広いテーマが組まれていた。

<3日目> 9月20日(金)

- 09:00- 技術発表(口頭発表)
(対面・オンライン方式)
- 技術発表 閉講式
- 終了次第 (2日目の実技研修の成果報告も各グループより行われた)

※研修中の天候悪化(東北地方大雨等)により閉講式を前倒しし執り行われた。

3. 研修に参加して(各日程の詳細)

○基調講演

仙台高専の園田教授による基調講演が右記の題目で行われた。地中の遺物等をレーダと自走ロボットを用いて非接触で検索する技術の説明と動画による実際の作業時の技術解説があった。震災という大きな出来事をきっかけとした科学技術の貢献と発展を感じることが出来た。

○実技研修

生物・生命科学群テーマの「植物園の植物保護活動の実際と青葉山のモミを知る」を受講した。

- 09:00- ガイダンス等
- 12:50- 講演①
「天然記念物「青葉山」の成り立ちと未来への継承」
植物園研究部 助教 大山 幹成
- 10:10- 講演②
「研究紹介 小笠原諸島国立公園・特別自然保護区」
植物園研究部 助教 伊東 拓朗
- 10:50- 実習「モミの毬果観察(野外)」 「モ

ミの毬果紙模型の作製」

13:00- モミの毬果紙模型の作製・観察
終了まで 植物園見学

午前中の講演では天然記念物である青葉山の成り立ちとその特徴について説明があった。また、植物の生態管理の一例として小笠原諸島の特殊な動植物について解説と研究紹介があった。その後、実際に東北大植物園内にてモミの木や毬果について観察をし、紙模型の作製に進んだ。図1に示すように毬果を構成する苞鱗を104枚切り出し1枚ずつ支柱に固定していった。完成した毬果モデル（図2）は、実物を忠実に再現しており構造や成長の過程を観察することができた。

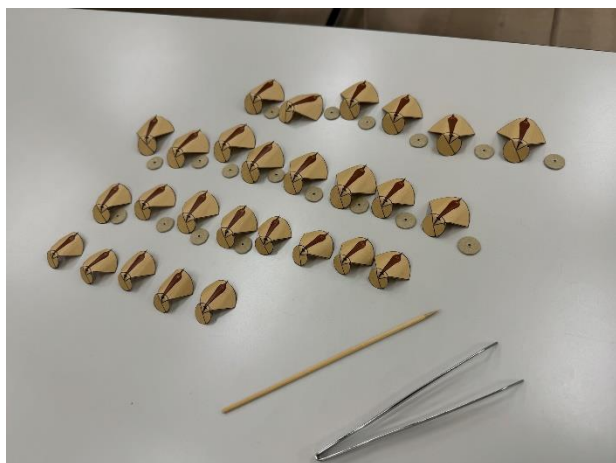


図1 毬果を構成する苞鱗の作製



図2 完成した毬果モデル

○技術発表

口頭発表9件、ポスター発表が11件行われた。日々の研究報告や実験実習等の事例報告、その他業務報告が行われた。「実験実習における分析装置の活用例」というタイトルで発表を行った。参加者からは様々な意見や質問が飛び交い、各大学の状況や姿勢を知ることが出来た貴重な時間であった。

4. おわりに

自身2回目の参加になった本研修では、普段関わりの少ない各大学の技術職員との交流を持つことが出来、非常に有意義な時間であった。業務の専門さや多様さなど高専技術職員とは異なる業務に大きな刺激を受けた。次回以降もまた参加できるよう日々の業務に精進していきたい。

また、天候悪化による急な日程変更等にも関わらず、スムーズな研修会を実施していただいた東北大学青葉山北キャンパスの皆様には感謝申し上げたい。来年度は山形大学主催になるため発表だけでなく聴講等での参加も検討していきたい。